

日時 2011.3.13(日)
13:00-16:30

「老」といういのちの相

【講演者】
鷲田 清一氏
哲学者

【パネリスト】
小沢 牧子氏
心理学研究者

【パネリスト】
藤川 幸之助氏
詩人

【コーディネーター】
浅野 玄誠氏 同朋大学教授

日時 2011.4.17(日)
13:00-16:30

「病」といういのちの相

【講演者】
徳永 進氏
医師

【パネリスト】
最首 悟氏
和光大学名誉教授

【パネリスト】
田口 弘氏
真宗大谷派僧侶

【コーディネーター】
一楽 真氏 大谷大学教授

日時 2011.5.15(日)
13:00-16:30

「死」といういのちの相

【講演者】
田口 ランディ氏
作家

【パネリスト】
帯津 良一氏
帯津三敬病院名誉院長

【パネリスト】
藤原 新也氏
写真家

【コーディネーター】
門脇 健氏 大谷大学教授

入場無料

お気軽にお立ち寄りください!

宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌テーマ「今、いのちがあなたを生きている」

公開講演会・シンポジウム

会場 東本願寺 御影堂

人間と いのちの相

生老病死

人はだれも、生まれ、老い、病み、死んでいく...
そのことになんら意義を見いだせないまま
刹那的に生きていく
一人ひとりが かけがえのない
いのちを生きていくためには...

すがた

真宗大谷派
東本願寺
Higashi Otani-ji

宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌テーマ「今、いのちがあなたを生きている」公開講演会・シンポジウム

人間といういのちの相

生老病死

人はだれも、生まれ、老い、病み、死んでいく...

人は生まれた瞬間から何一つ思いどおりにいかない人生を歩みはじめます。仏教は、そんな人間の深い苦悩から生まれ、いつの時代でも苦悩する人間を照らし、受けとめてきました。今、全四回で開催する本講演会・シンポジウムでは、人間の苦悩と向き合ってきた人々の言葉と聞き、人間の根源的な身の事実である「生老病死」を東本願寺で共に見つめたいと思います。

※講演者はパネリストも兼ねています。

2011年 3/13(日) 13:00~16:30

「老」といういのちの相

【講演者】 鷲田 清一氏 (わしだ きよかず)
1949年生まれ。大阪大学総長、哲学者、現象学・身体論からファッションまでその著作は多岐にわたる。東本願寺出版部の月刊誌「同朋」にエッセイ「そぞろ歩き」を連載中。著書に『老いの空白』(弘文堂)、『(弱さ)のちから』(講談社)など。

【パネリスト】 小沢 牧子氏 (おざま まきこ)
1937年生まれ。和光大学非常勤講師として長年臨床心理学を論じた後、現在は、フリーの研究・著述業を営む。著書に『心の専門家』(はいらな)、『洋泉社新書』、『子どもの場所から』(小澤音はなし研究所)、『心の時代』と教育(青土社)、『心理学は子どもの味方か?』(古今社)など。

【パネリスト】 藤川 幸之助氏 (ふじかわ こうすけ)
1962年生まれ。詩人、児童文学作家。小学校の教師を経て、現在は詩作と文筆活動に。認知症の母親に寄り添いながら、いのちや認知症を題材に作品を作り続ける。著書に『満月の夜、母を施設に置いて』『まなざしかいご〜認知症の母と 言葉をこえて 向かいあうとき〜』(中央法規出版)、『マザー』(ポプラ社)、『やわらかなまっすく』(PHP出版)など。

【コーディネーター】 浅野 玄誠氏 (あきの げんせい) (同朋大学教授)

2011年 4/17(日) 13:00~16:30

「病」といういのちの相

【講演者】 徳永 進氏 (とくながすすむ)
1948年生まれ。医師。鳥取赤十字病院の内科医を経て、01年、鳥取市内のホスピスケアのある「野の花診療所」を始める。著書に『こんなときどうする?〜臨床のなかの問い〜』(岩波書店)、『隔離〜故郷を追われたハンセン病患者たち〜』(岩波現代文庫)、『死の文化を豊かに』(ちくま文庫)、『死の中の笑み』(ゆみ出版)など。

【パネリスト】 最首 悟氏 (さいしゅうご)
1936年生まれ。1968年東京大学全学共闘会護助手共闘に参加。1977年第一次不知火海難総合学術調査団に参加。現在和光大学名誉教授。ダウン症のわが子と向き合いながら、著述、評論活動と続ける。著書に、『「病」という病からの〜水俣誌々〜パート2』(どうぶつ社)、『水俣50年〜ひろがる「水俣」の思い』(作品社)など。

【パネリスト】 田口 弘氏 (たぐちひろし)
1961年生まれ。真宗大谷派僧侶。視覚障害・聴覚障害を抱えながら、東京都新宿区に仏教酒場「東京ボウバー」を開く。

【コーディネーター】 一楽 真氏 (いちらくまこと) (大谷大学教授)

主催=東本願寺(真宗大谷派)

後援=京都新聞社、真宗大谷派学校連合会、第26回国民文化祭京都府実行委員会、中日新聞社、北國新聞社、読売新聞京都総局、龍谷大学人間・科学・宗教オーブンリーサーチセンター、KBS京都 (五十音順)



お問い合わせ先 東本願寺 研修部「御遠忌テーマ公開講演会・シンポジウム」係
〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上 上 TEL.075-371-9185
東本願寺ホームページ <http://www.higashiotani.or.jp>

【注意事項】 ■境内・室内での飲食はご遠慮ください。 ■境内・室内では禁煙となっておりますので、喫煙は所定の場所をお願いいたします。 ■特に公開講演会・シンポジウム中は、話し声、携帯電話の着信音や会話、無理な移動など、他のお客さまの迷惑となる行為はお控えください。 ■その他、会場係員の指示に従ってください。 ※予告なしに内容を変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

2011年 5/15(日) 13:00~16:30

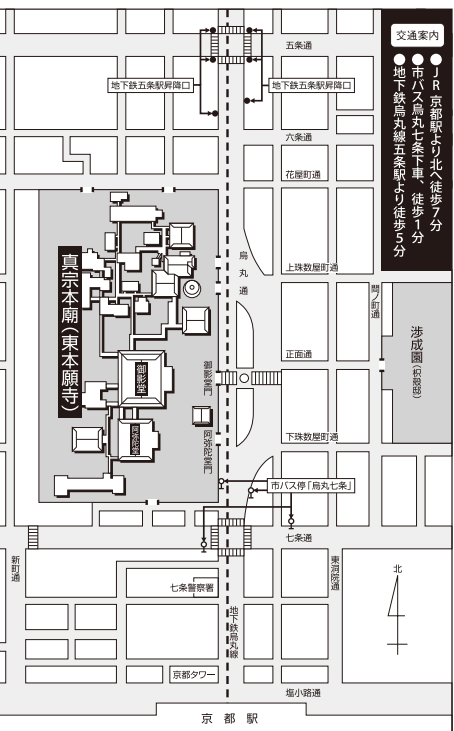
「死」といういのちの相

【講演者】 田口 ランディ氏 (たぐちらんてい)
1959年生まれ。作家。00年、実兄の引きこもりからの死の経験が題材とした小説「コンセント」でデビュー。78年、『道徳遊記』で第3回木村伊兵衛写真賞。著書に『メント・モリ』(三五館)のほか、『東京漂流』(朝日新聞出版)を刊行。他に『生きなおすのってこの日』(バジリコ)、『キユア』(朝日新聞出版)、『被爆のメリア』(文藝春秋)など。

【パネリスト】 帯津 良一氏 (おびつりょういち)
1936年生まれ。医師。東洋医学(代替医療)と西洋医学の結合によるホリスティック医学の実践・推奨に努める。現在、帯津三敬病院名誉院長。『全力往生〜への世とこの世にときめきを〜』(小学館)、『死を生きる。』(がん患者 治す力) (朝日新聞出版)、『生きる勇気、死ぬ元気』(平凡社)、『五木寛之共著』など。

【パネリスト】 藤原 新也氏 (ふじわらしんや)
1944年生まれ。写真家・作家。69年、学生時代にインドなどアジア各地を旅し、72年に『印度放浪』でデビュー。78年、『道徳遊記』で第3回木村伊兵衛写真賞。著書に『メント・モリ』(三五館)のほか、『東京漂流』(朝日新聞出版)など。現在、東本願寺出版部の月刊誌「同朋」に『日常眼蔵』を連載中。

【コーディネーター】 門脇 健氏 (かどわきけん) (大谷大学教授)



※自家用車駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。